

対カンボジア無償資金協力「国立母子保健センター拡張計画」完成式典

11月28日（月）、我が国の無償資金協力による「国立母子保健センター拡張計画」の完成式典が開催されました。

国立母子保健センターは、首都プノンペンに位置し、3つの機能（行政・臨床・研修）を兼ね備えたカンボジア最大の産婦人科病院で、我が国の無償資金協力により1995年に建設されました。

同センターは建設当時から21年以上が経過しており、カンボジアの人口増加に伴う各機能の拡大、患者数の増加、母子保健分野の臨床研修機関として医療従事者への卒前・卒後研修の提供、医療サービスの高度化に伴う研修コースの多様化や長期化等に対応するため、施設の拡充が求められていました。

本プロジェクトでは、国立母子保健センターの研修棟の新設、医療機材の整備及び既存施設の改修が実施され、母子保健に係る臨床サービス、研修及び行政機能の向上が図られることにより、カンボジアにおける母子保健サービスの改善に寄与することが期待されています。

完成式典では、モム・ブンヘーン保健相によるスピーチが行われ、続いて堀之内大使が英語及びカンボジア語でスピーチを行い「新設された研修棟がカンボジアの保健サービスの模範となるとともに、改修された本病院がカンボジア人のニーズに効果的に応えることが出来るよう心から願っている。」と述べました。最後に、ビン・チン副首相がスピーチを行い「大使館を初めとした各種支援の下、新たな研修棟が完成したことに改めて感謝する。今後も同センターの更なる発展を願う。」旨述べました。

続いて、ビン・チン副首相、モム・ブンヘーン保健相及び堀之内大使によるリボンカットを行った後、新しく建設された研修棟内を視察し式典は終了しました。



写真1 堀之内大使のスピーチ



写真2 リボンカットの様子



写真3 ラタビー院長
（左）による院内説明